

令和5年度 事業者向け放課後等デイサービス事業所自己評価表

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子どもの安全に配慮し、広いスペースで十分に伸び伸びと活動させることができた。
	2 職員の配置数は適切である	○			少人数の利用者なので、職員の目が良く行き届くことができた。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			その都度問題提起等があり、改善につなげた。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	外部評価はできなかった。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			WEB研修等、様々な研修を行った。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別の支援計画を活用し、個に応じた計画を立てることができた。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			個に合った活動プログラムを話し合っ決めていくことができた。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節の行事に応じた活動を取り入れたり、個に沿った活動を考えたりして提供することができた。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			個別支援計画を基に、各自の課題・興味等に応じた個々に必要な活動をスタッフで話し、共通理解しながら支援につなげることができた。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			形式的な設定ではないが随時、職員同士の確認、振り返りを密に行うことができた。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			形式的な設定ではないが随時話し合いの場を設けて、職員同士の確認、振り返りを密に行うことができた。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			KJ法を用いたり、所内研修等で共通理解を図ることができた。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			管理者が参加した。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校の送迎時は、学校での様子を聞き、体調変化や変わった様子はないか、確認することができた。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療行為は行っていない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		対象者なし。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			定期的なモニタリングを通して、情報提供することができた。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		外での活動で、地域の小学生や中学生と交流を行うことができた。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○	参加することができなかった。
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			日々の連絡帳・送迎時・年2回のモニタリング等を通して保護者と子どもたちの様子等を伝え合い、共通理解を図ることができた。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			モニタリング時を活用し支援する事ができた。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			送迎時やモニタリングを通して相談に乗ることができた。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	開催できなかった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情はなかった。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			行事や日々の様子をホームページに載せ、発信することができた。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	招待できなかった。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止委員会開催時に、研修も兼ねて行うことができた。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	対象者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			